

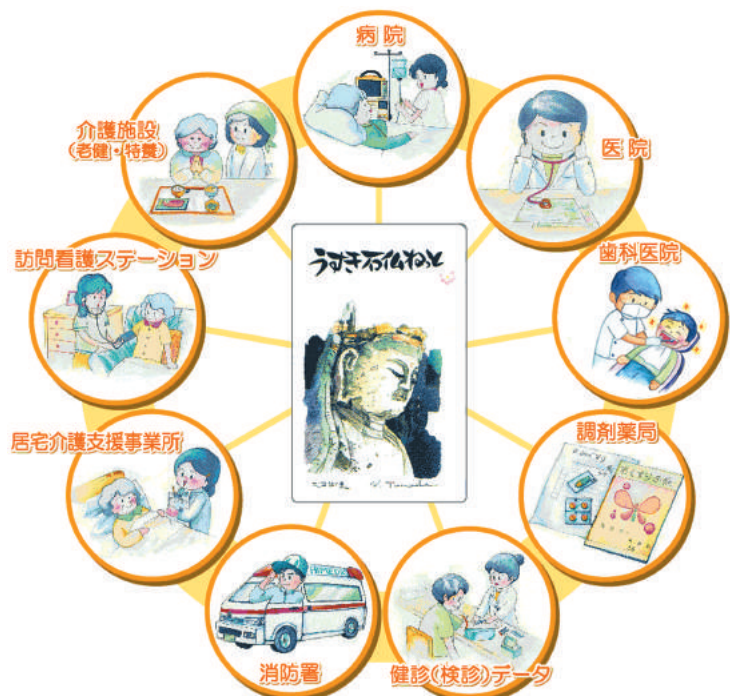


かけはし

大分大学病院とクラウド型EHR高度化事業(うすき石仏ねっと)との連携について

平成30年7月23日より、大分大学医学部附属病院は、うすき石仏ねっとの推進するクラウド型EHR高度化事業との連携を開始しましたので、お知らせします。

「うすき石仏ねっと」は、平成20年に発足した臼杵市と臼杵市医師会によって運営されている双方向性のネットワークで、病院、診療所、薬局、歯科医院、消防署、介護施設等をつなぎ、患者基本情報、検査データ、処方データ、注射データ、サマリー情報、画像情報、連携パス、介護データ等を共有しています。患者同意はカード提示で行っており、平成30年8月末現在、19,458名(人口の52.3%)が参加している、全国でも数少ない成功している医療情報ネットワークの一つです。「うすき石仏ねっと」が推進する平成28年度のクラウド型EHR高度化事業補助事業により、大分市内にデータセンターを設置して、中部医療圏の医療情報ネットワークの整備が進められています。本院は、大分医療情報ネット(ID-Link)を利用して、このネットワークと連携を行っています。この連携により、患者基本情報、検査データ、処方データを「うすき石仏ねっと」と本院の間で共有することが可能になりました。「うすき石仏ねっと」に登録している患者さんが、本院受診の際に「石仏カード」を提示することにより、参加施設間での情報を共有できるようになり、本院電子カルテ上の「参照」画面上で「うすき石仏ねっと」の処方・注射・検査の情報が確認できるようになりました。また、「うすき石仏ねっと」側からも本院の情報を同じように閲覧できるようになっています。石仏カードをお持ちの方は、総合患者支援センター窓口で提示してください。現在は、石仏カードをお持ちの患者さんに限定されておりますが、今後は、対象患者さんを広げられるように、このような医療情報ネットワーク連携を推進していきます。



※EHRとは、電子健康記録・生涯医療記録のことで、異なる医療機関・健康関連組織で別々に管理されている個々の健康・医療情報を地域 / 国レベルで集約・統合して共同利用する仕組みです。

サービス向上への取組み

再整備も進み、新しくなった大分大学医学部附属病院ですが、新しくなったのは建物だけではありません。患者さんのために、様々なサービスや設備の見直しも行っています。

★ベビーカーの貸出サービスがあります★

本院では貸出用のベビーカー（4台）をご用意しております。背面式と対面式の2タイプございます。ご利用の際は、総合案内のスタッフにお声掛けください。



★コインロッカーが新しくなりました★



外来ホールには患者さん用にコインロッカーがあります。1日1回100円で利用できます。

※24時で日数の切り替えとなり、引き続きご利用の場合は上記料金の追加となります。

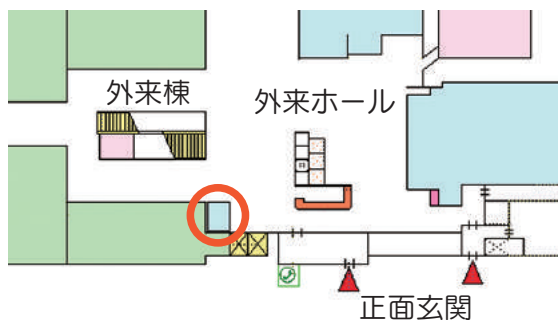
※使用できる期間は7日以内となっております。

よくある
お問い合わせ

【院外処方せんFAXコーナー】はどこへ？



平成30年3月から1階・外来ホールの中央階段横(正面玄関入って左)に移転しております。



第5回がん地域連携クリティカルパス講演会の報告

大分大学は県のがん診療連携拠点病院に指定されており、その他の県内の地域がん診療連携拠点病院は5施設、協力病院は3施設あります。それらの拠点病院、協力病院と連携を結んでいる、かかりつけ医は（大分県内全域で7月末現在）297施設となっています。平成23年から開始された、がん地域連携クリティカルパスは、かかりつけ医の先生方とがん診療連携拠点病院、協力病院が連携ノートを使い、（患者さんの情報を共有する交換日記のようなもの）、大分県内では約500名の方が利用されている制度です。

第5回目となる「がん地域連携クリティカルパス講演会」は、平成30年8月3日（金）にホルトホール大分で開催されました。年1回かかりつけ医と拠点・協力病院の医療関係者を対象に講演会が開催されており、今年の内容はクリティカルパス専門部会長である本院呼吸器・乳腺外科学講座の杉尾が全般的なことをわかりやすく説明し、大分赤十字病院の廣重医師、大分大学乳腺外科の武内医師がさらに現状について説明しました。

平成30年度の診療報酬改定では、本制度を国が推し進めていることやかかりつけ医の重要性も示唆されたためか、大分市内でおこなわれたお祭り（府内戦紙）と同日にも関わらず、約90名と多くの医師、看護師、MSW等が参加されました。当日のアンケートには隙間なく質問や感想が記されており、関心の高さが伺えました。

県がん診療連携拠点病院

- ・大分大学医学部附属病院

地域がん診療連携拠点病院

- ・大分県立病院
- ・大分赤十字病院
- ・別府医療センター
- ・中津市民病院
- ・済生会日田病院

がん診療連携協力病院

- ・アルメイダ病院
- ・大分医療センター
- ・厚生連鶴見病院

がん地域連携クリティカルパス講演会 （CC7医療の質と安全 CC12 地域連携）

日時：平成30年8月3日（金） 19:00～20:00
場所：J COM ホルトホール大分 302・303会議室

開会の挨拶

大分県がん診療連携協議会 クリティカルパス専門部会長
大分大学医学部呼吸器・乳腺外科学講座 教授 杉尾賢二

【演題】

1. 「地域連携クリティカルパスの概要と現状について」
大分大学呼吸器・乳腺外科学講座 杉尾賢二
2. 「大分赤十字病院の地域連携クリティカルパスの現状～アンケート集計結果より～」
大分赤十字病院外科 廣重彰二
3. 「乳がん地域連携クリティカルパスの現状について」
大分大学医学部附属病院乳腺外科 武内秀也



がん地域連携医療機関として登録されていない施設はぜひ登録をお願いします。

問合せ先：大分大学医学部附属病院

総合患者支援センター

☎ 097-586-6374

（平日 9:00～17:00）

アイフェスタ in 大分のご案内

平成30年10月8日(月・祝日) 大分市コンパルホールで10時～16時に大分県眼科医会主催のアイフェスタin大分が開催され、以下の行事が行われます。

①東日本大震災でも活躍した「動く眼科診察室」ビジョンバンでの眼科専門医による無料検診、②大分県眼科医会による医療相談、③大分県視能訓練士会による簡易視野検査、④大分視能訓練士専門学校によるロービジョン体験およびロービジョン機器の展示、⑤県内視覚関係団体の展示、⑥大分盲導犬協会による盲導犬のデモンストレーション、⑦大分大学眼科による眼疾患紹介コーナー、⑧目の健康講座 13:00～13:30 別府在住の盲目の唸家ザトーの落語講演、13:30～14:30 本学眼科教授、久保田敏昭の講演「高齢者に多い眼疾患—白内障と緑内障」。入場無料ですので奮ってご参加ください。

(文責 眼科)



あなたの声を待っております。良い病院になるために



患者さんの「声」は要約して載せておりますのでご了承願います。

声

子供の食事のやり方 もう少し食べやすい大きさにならないか。あまりにも歯がはえはじめや、少々はえはじめた子供にはむり。かめるわけがない。(50代女性 入院)

回答

当院では、離乳食、幼児食の基本食は年齢や体重により、エネルギー量、食事内容、形態を決めています。

離乳食は初期(ドロドロ状態)、中期(細かい刻み状態)、後期(形を残し柔らか煮)としております。幼児食に関しては、形態は同じですが、乳児1と2の区別があり、米飯量や副菜の量等を変えています。しかし、乳幼児期は個人差が大きく、さらに治療などにより、規定の食事形態、内容が合わない場合があります。その場合は看護師に相談していただければ、管理栄養士、調理師が病棟へお伺いし、食事内容、形態を調節いたします。

またお申し出があれば、食物アレルギー等の対応もしております。どうぞ、お気軽にご相談下さい。

声

入院中なのですが、夜間暑くて眠れません。日中もアイスノンが手放せない状態です。早めにエアコンを入れて下さい。熱中症になりそうです。よろしく願います。(40代女性 入院)

回答

通常、空調は病院の取り決めに従い運転しておりますが、今年は異常気象により猛暑が続いたため、外気温に応じて延長運転や温度調節を行い、夜間の暑さに対応することとしました。

また、毎年7月1日から9月30日までの3ヶ月間を冷房運転としていますが、期間外であっても外気温や不快指数に応じて、随時対応します。

(文責 病院長)

ものわすれ外来のおしらせ

超高齢社会となった日本では、認知症は最大の課題です。実際に高齢者の15%に認知症が見られ、患者さんの数は5歳高まるごとに倍増することがわかっています。

認知症になると、どのような症状が見られるのでしょうか？

認知症の症状には、「中核症状」と「BPSD（行動・心理症状）」とがあります。

「中核症状」の最も代表的なものは「もの忘れ」です。その他、判断力の低下や、時間や場所の状況把握の障害（見当識障害）、言語の障害などがこれにあたります。

「BPSD（行動・心理症状）」とは何でしょうか。気分の落ち込みや興奮、昼夜逆転や幻視、徘徊など、以前に「周辺症状」と呼ばれていたこれらの症状は、場合によっては「中核症状」よりも問題になることがあります。

認知症の原因には、最も多いアルツハイマー型の他にも、レビー小体型、脳血管性、その他にも様々な疾患があります。その中には、正常圧水頭症や、甲状腺機能低下症、ビタミン欠乏など、治療によって治すことのできる認知症もあります。

それぞれの認知症には異なった特徴があり、治療法もその後の経過も違います。従って、認知症の診断を適切に行うことは大事なことです。

大分大学のものわすれ外来では、3つの診療科が協力して、認知症の可能性のある方々に対して診察、検査、診断、治療、ケアを行っています。治療やケアに関しては、地域のかかりつけ医の先生方と協力して、連携をとっています。

ものわすれ外来は予約制です。受診を希望される方は、まずはかかりつけ医に紹介状を書いてもらい、下記の電話番号にお問い合わせください。お待ちしております。

受診を希望される方は、下記の電話番号にお問い合わせください。

電話番号	(病院代表) 097-549-4411
予約の受付時間	月曜日～金曜日（土日祝除く）AM9:00～PM16:00
予約方法	電話が繋がりましたら『ものわすれ外来の受診予約』とお申し出ください。

ものわすれ外来の日程表

診療科	担当医				
	月	火	水	木	金
神経内科	木村 成志 ^{*1}			佐々木雄基	
精神科			石井 啓義 ^{*2}		
総合内科・ 総合診療科	吉岩あおい 木村日香梨		吉岩あおい	吉岩あおい 山本 恭子 木村日香梨	

*1 日本認知症学会専門医・指導医 *2 日本老年精神医学会専門医

神経内科 初診完全予約制開始のお知らせ

神経内科では、平成31年3月1日から初診で受診される患者さんの**完全予約制**を開始します。

診察を希望される方は、かかりつけ医等の医療機関から予約及び紹介状が必要となります。

ご協力よろしくお願いいたします。



対象診療科及び変更時期

【完全予約制】

耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科	紹介状及び総合患者支援センターを通しての予約が必要（完全予約制）
腎臓外科・ 泌尿器科	紹介状及び総合患者支援センターを通しての予約が必要（完全予約制）
小児科	紹介状及び総合患者支援センターを通しての予約が必要（完全予約制） ※ <u>専門分野を選んで、予約希望日をご連絡いただきます</u>
産科婦人科	紹介状及び総合患者支援センターを通しての予約が必要（完全予約制）
眼科	紹介状及び総合患者支援センターを通しての予約が必要（完全予約制）
NEW 神経内科	平成31年3月1日 から、紹介状及び総合患者支援センターを通しての予約が必要（完全予約制）

【紹介状必須】

皮膚科 (形成外科を除く)	紹介状が必要
------------------	--------

総合患者支援センター受付（受付時間 平日 8:30~17:00）

電話：097-586-6360 FAX：097-586-6358

（文責 医事課）

大分大学医学部附属病院

〒879-5593 由布市挾間町医大ヶ丘1丁目1番地 TEL 097-549-4411 (代)

大分大学医学部附属病院ホームページ <http://www.med.oita-u.ac.jp/hospital/index.html>

これまでの「かけはし」は、医学部附属病院ホームページからご覧いただけます。

